[illegible]蛇杖

共六本 八十二

政官文庫
和書門
一五六七號
一八函
一架
六

176
内閣文庫
和書 類
一一五六七號
六冊
一四一函
一七架

内閣文庫
番號 和 11567
冊數 6 (1)
函號 141 176

141-176

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

秋のつまもかゝる有さましげて其かう致
光わらふあまにいかい株風雲なる一雲と
なお紗ニ学とちゝゐせ竹首ね庵の文にあやとり
飯田の筆前美人にもるかふしふにわる
竹撰せ玄乙成の子周清水寺をいひしいせ乃
まれ此はひをわれなみニ丸ありし生めし
京来め子ひふみやのなてゝも
下にゆかてまへ一ほ邑一検校なし両

日本政府図書
内閣文庫

いはくらくは言のみちはかこのこと古ぬ
國よりわたりしきこえひとへに御心にかなひて
まててよろこしのふみらにくはえたるのふよの
みなかみ古の道なきにしもあらすいさゝか
たゝほめさせ給ふ義をやよつは海古つ
めして中國の風立たるこよなしとい
ひもて記ものわたしに西風たえはお
ほ神代や年月は名残つる寛せしいとゝ

御影半なしゝ撰この布衣たせ給ひくる
中にしるして云延喜にし津百義也
ちこ有勢し御代みとゝめて因也
ひきましきしるすせうしなりけれ鉢ニよせ
たまふみなむしわりまてそれ文化やつとし
静廼舎主人はつゝしみて撰せし古道次

和かはおほ葦原との國又細戈千足
國みえて人皆仏性を挿くたゝせ給ふゆゑ
なかむたしと国にて海さら尊き事新させ縦て
よ遊び侍るよりて菜く花さへ春とかゝり
來るは和歌をなすまのこゝのえ登とて礼味の
ふり紙新本ともかゝる気色にきまりさ新たに
あまた川しりあるゝ事しかと風につくらのとの
き先ほの色を縦て心さこ乎申かな誰か人新む

まほろしにもとむるはとりて洛えらし
うきよ律国ちらかひこ事緒てこと吴へと共に学
世にたる事へひにすやたあり姫年耕に
ともを遂まうとくいふ事遂を蒙に為
なか御けまれとかく代ゝの事歌
ことかれあつむるまこと律うつひ読く
擲こ月刊中よりまた姫ちふより蒙をと
ゆこそ殊にこ事い律ます哉へとさう

名付て螢蠅抄となん帰ける螢火のかけ
なく飛ぶ五月蠅などはあしき飛のあとひきて
えうしらの御国よあまねす事をかきとし
をさめて飛風に吹をさめ遠ことの遂よう作ひ
なつかしむ理りなれば世人よろこひもてあそひとく行

文化八年二月五日

検校保己一

螢蠅抄引用書目

舊事紀
續日本後紀
日本紀畧
百練抄
帝王編年記
神皇正統録
神明鏡
皇年代記
大日本傳皇代記

日本後紀
三代實録
扶桑略記
一代要記
歴代皇紀
神皇正統記
皇代略記
皇年代略記
天地根元歴代圖

和漢合符
日本運上録
興福寺年代記
大鏡
増鏡
伏見院御記
小右記
園太暦
吉續記
勘仲記
和漢合運
天正中年代記
如是院年代記
大鏡裏書
五代帝王物語
後崇光院御記
竹林院左府記
左經記
仁部記
太田康有記

臥雲日件録
西宮記
朝野群載
善隣國寶記
太神宮例文
公卿勅使參宮次第
八幡愚童記
神功皇后繪詞
大安寺八幡縁起
藤森縁起
類聚三代格
北山抄
本朝文粋
類聚神祇本源
伊勢公卿勅使雜例
度會元長神祇百首
八幡愚童訓
由良八幡縁起
諏訪大明神繪詞
伊豫國三嶋社縁起

宇津宮大明神奇瑞記
春日社三十講最初御願文
類聚大補任
仁和寺御傳
天台座主記
東寺長者補任
元亨釋書
密嚴上人行狀記
興正菩薩傳
忍性菩薩行狀略頌
真源大照禪師行狀
妙慈弘濟大師行記
日蓮註画賛
蓮公略傳
蓮公年譜
日蓮化導記
日蓮親書簱漫荼羅記
門葉記
東寶記
醍醐枝葉抄
孔雀經御修法記
五壇法記
伽藍開基記
將軍執權次第
關東評定傳
北條九代記
新式目
成氏朝臣年中行事
保曆間記
太平記
竹崎五郎繪詞
豫章記
龍造寺記
尊卑分脈
大中臣氏系圖
大藏氏系圖
日下部氏系圖
北條系圖
大友家譜
宇都宮系圖

吉見系圖
菊池家譜
武藤少貳家譜
稲葉家譜
田尻家譜
西大寺文書
東寺文書
高野山文書
島津文書
野上文書

菊池系圖
武藤少貳系圖
河野家譜
宗家譜
常陸國吉田社文書
興福寺唐院文書
東寺引付
尾張國性海寺文書
志賀文書
田尻文書

菊池武朝申狀
春乃深山路
國牛十圖
海人藻芥
東鏡末記
異稱日本傳

室親善申狀
大槐秘抄
壒囊抄
鎮西要略
弘安記
異賊襲來祈禱注録

螢蝿抄第一

神明鏡云蒙古我朝ヘ寄ル叓開化ヨリ始ル仲哀ニハ新羅高麗百濟也仍神功皇后御對治其後欽明敏達推古天智宇多一條御宇也毎度以神力對治中ニモ文永并弘安ニハ當以奇特神變共也一按條當作後一條一代要記類聚大補任亦為一條誤

類聚大補任云新羅國百濟國刀伊國一名蒙古國一名、、國軍渡時代第九代開化天皇十九年新羅國合戰十万八千人渡四十八年合戰二十万三千人渡第十四代仲哀天皇ニ崩御之後皇后於豊浦嶋得如

意珠到高麗百濟新羅國降伏第十五代神功皇后新羅合戰五度内廿年新羅軍三万八千人廿五年五万三千人卅七年四万三千人四十四年十万人五十一年十万人第十六代應神天皇廿三年新羅軍来第卅代欽明天皇五年新羅軍来第卅一代敏達天皇四年辛巳新羅軍起後大宰府迄明石浦皆焼失第卅四代推古天皇八年庚申新羅合戰第卅九代天智天皇元年百濟國軍船七十艘二年同國王卒四年新羅軍兵二万七千人第六十六代一條院刀伊國異賊渡軍自開化天皇御宇至于一條院御時十代間異國賊来度以上十六箇度云々

八幡愚童記云倩算異敵之襲来人皇九代開化天皇四十八年廿二萬三千人仲哀天皇御宇廿萬三千人神功皇后御代卅萬八千五百人應神天皇御時廿五萬人欽明天皇御宇卅萬四百餘人敏達天皇御代ニハ播磨國明石浦迄着ケリ推古天皇八年四十三万人天智天皇元年二萬三千人桓武天皇六年四十万人文永弘安御宇ニ至マテ以上十一ケ度雖襲来皆追歸サレ多滅セリ

伊豫國三島社縁起云人皇九代開化天皇位四十

八年從ニ異國一我朝ニ渡十四代仲哀天皇位此御宇異
國塵輪ト云物長門國豊浦郡ニ渡十五代神功皇后位
從ニ異國一朝敵渡十六代應神天皇位異國敵日本ニ渡
三十代欽明天皇位此代異國渡卅一代敏達天皇
位從ニ異國一播磨國明石浦ニ攻寄舍光三暦壬辰扶桑州
蝦蟠州流泉州高麗國軍渡卅四代推古天皇位顧
轉元年辛丑從ニ異國一渡卅九代天智天皇位白鳳元年
辛酉異國渡
一代要記云欽明天皇五年新羅軍来推古天皇八
年庚申或記云新羅合戰又云此御時異國軍從ニ太
宰府一至ニ播磨國一焼ニ明石浦一云ニ天智天皇元年壬戌
或記云今年百濟國軍船七十艘来二年癸亥百濟
滅或記云百濟王卒四年乙丑或記云三月新羅軍
兵二萬七千人伐レ之一條院此御代刀夷國凶賊渡
自ニ開化天皇御宇一至ニ當代一異國賊卒来十六度
神功皇后繪詞云仲哀天皇御宇二年癸酉歳にあた
りて新羅國より數万の軍兵攻きたりて日本を討捕
らむとす然る間天皇みつから數万の官軍を
率し給ひて從へて長門國豊浦に行て異國の凶
賊を拒きし給ふ此時異國より塵輪と云鬼鐵然

其色ハ赤く頭ハ八ツにして形鬼神のごとくなる故に
黒雲に乗て日本に来り人民を害しける事を歎き
たまひ天皇安倍高丸介丸に仰て惣て是をせめさせ
塵輪こらへかたきよし奏しけれバ人臣ともに是を申
たまひまたく討事あるべからずとて我十善の身力を以てかの
者を降伏せしめんと仰せられて即彼二人を召
具して門の西方を護らせ給ふに老六旬にあまりて
塵輪黒雲に乗して出来る高丸武内大臣を以て
此由を奏せるに御弓矢をとり矢を番て射させ
給へバ塵輪が頭忽に射られて頭と身と二つに

なりて落ぬ其首はなれて何とか空に去りけれど流矢
はなれて玉体にあたり同九年二月六日御年五
十二にて筑紫の橿日の宮にて終に崩御ましましぬ

又見八幡愚童記由良八幡大安寺八幡等縁起

舊事紀仲哀天皇紀云八年春正月天皇幸筑紫討熊襲之議矣時有神託皇后誨曰云云天皇不信神教誨猶親撃熊襲中賊矢也九年春二月癸卯朔丁未天皇忽有痛身而明日崩于時年五十二即知不信神教而中賊矢早崩之矣按日本紀一説亦為天皇中賊矢崩然今不論之以有所憚也

天正中年代記云欽明天皇僧聽元庚午自新羅百濟兵船六万艘責来按庚午即位十三年也舒明天皇和景纒二乙未自異國兵船二万艘對馬迄責来按乙未即位八年也和漢合符云推古天皇廿七丁丑新羅兵襲来豫章記云益躬府中樹下御館有仍樹下押領使ト云東禪寺ニ館有号鴨部大神當國國司被任推古天皇御宇三韓襲来ル戎人八千人鉄人為大将来然者伐射不叶以人為粮食筑紫九ケ國者衛ニ手ナシ向者大半被打殺或山林逃隠捴向者無之西國マテ打上ル爰益躬夷敵退治亨家先例トテ勅ヲ承リ九州ニ發向シ見給フニ味

方一人モナシ詮方盡テ俄ニ知謀ヲ設先降ヲ乞テ申様我生ナカラニシテ得武藝ト云ヘ共日本武将劣識不知之去レハ日本ノ住居モ懶有願ハ御手ノ奴ト作忠ヲ致恩顧ヲ蒙リ度也殊日本山嶮水深無案内ノ人輙可透地ニ非ス我案内致存知也先引可申ト云ケレハケニモ相好伶利諸藝可将器量也トテ即降ヲ赦彼鉄人馬ヲ先立テ打上ル程益躬如何近付寄テ伺ヒ見ニ鉄身ト云ヘ共肉身ノ處可有ト思ヒ窺見行程ニ播磨國明石浦ニ著此處ヨリ陸地ニテ風景面白處ナリト云ケレ

八舟ヲハ室津高砂ニ止馬共追下打乗蟹坂ヲ越
彼坂上レハ下ル坂ナレハ須磨ヤ明石ノ浦傳景モ
勝處ナレハ鉄人モ乗興足ヲ擧馬ノ上ヨリ遠見シ
テ彼是問ケルヲ答体ニテ見レハ足ノ裏ニ眼有
誠神明御示現ヨト喜テ袖下ニ隱持タル矢ノ鏃
ハ綿繰也名ニ掃鬼以今度亦擧處ヲ拋矢ニ被投ケレ
ハ趺ヨリ頭迄徹ケルホトニ馬ノ上ヨリ真倒落
此時迄出江橋立ト云益躬ノ被官ノ有ケルニ課
頭ヲ打セラル鉄人ナレ𪜈氣盡ヌレハ安〻ト首
刎是ヲ指上レハ夷國ノ習大将死スレハ士卒皆

自殺也戎人八千人自害スルマヽ殘黨共ハ忙然
迯方モ不知迷ヒケルヲ日本者共須磨垂水ノア
タリ迄逃延タル夷賊悉切捨ラル餘多切程打物
皆ホトヲリ返サレハサヽハ降ヲ赦シヨウロ筋
ヲ斷テ海邊ニ被放其子孫海士宿海ト成テ漁捕命
ヲ續ケル故ニ西國ノ海人河野下人タルヘシト
被定其間ニ殘徒四國ノ地ニ渡テ濫妨シケルヲ益
躬下向有被追伐其被切捨タル處ヲ鬼谷ト云和
介郡三津北ニ有又播州大蔵谷ノ西ニ三島大明
神御坐ス益躬此時御勧請申ス其矢今ニ在之伊

豫國ニテ八鴨部大神ト号ス 又見河野稲葉等家譜

日下部氏系圖云表米養父郡大領天智天皇御宇異賊襲来時為防戦大将賜日下部姓於戦場忽被退異賊

神皇正統録云桓武天皇延暦六年丁卯歳夷國兵此國襲来ル

和漢合運云延暦六丁卯夷國襲来

按開化至桓武異賊事正史所不載也然諸書所記大同小異又似有據仍集為一巻以備後考

螢蠅抄第一

國立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan